

国や県は、霞ヶ浦の汚染に十分な対策を講じているか、という質問に対して(表一)はい、と回答した者が六四%、いないと回答した者が三六%、わからないとした者一九三%、無解答六四%でした。

この数値は、県や国の施策に対して、一般市民がどれ程深い不信と不満を抱いているかを如実に示しています。

K 質問十一について

霞ヶ浦の浄化方法についての市民の意見は、実に多種多様ですが、分類すると次のようになります。

① 土浦、石岡、その他霞ヶ浦周辺の町村は速かに下水処理場を完備すべき事

② 県は工場排水に対する規制を大巾に強化すべき事
特に総量規制を早急に取入れるべき事

③ 養豚排水に関しては、各個別農家で排水処理場をつくるよりも、村又は町単位で巨大処理場を建設し監視体制を確立すべき事

④ 環境に応じた、養豚の頭数規制をすべき事

⑤ 水ガメ化を中止し、逆水門は適時開放すべき事

⑥ 鹿島工業地帯への大量導水は中止するか、大巾に制限して、工業地帯への導水は、霞ヶ浦、北浦以外に求めるよう政治的に解決を計る事

⑦ 小貝川、鬼怒川、利根川、那珂川などの水を霞ヶ浦に導入し、水量不足、循環不足を補い水質汚濁の改善をはかるべき事

⑧ 養殖鯉の「あみいけす」は、餌料を過度に与えないよう強力に指導すべき事

⑨ 中性洗剤の使用は、市民が自主的に規制すべき事

⑩ リン、窒素に対する排水規制を設けるべき事

⑪ 霞ヶ浦の周辺には、これ以上工場の建設を認めない事

⑫ 学園都市の排水は、絶対に霞ヶ浦へ流入させない事

⑬ 環境の汚染、自然破壊のもたらす弊害について、特に学校教育で徹底させ、開発や技術文明の短所、長所を十分理解した国民に育てるべき事

まとめ
今回のアンケート調査は、霞ヶ浦の水質汚染によって

土浦の市民が、どれほど生活に不安を感じているか、また、県や国の水行政を、どのような目で見ているかを知ることには主眼が置かれました。

その結果は、前述のデーターに示されているとおり、市民のほとんどが、日々の生活に極めて大きな不安を抱

いていることが判明すると同時に、県や国の政策に深い